

製本のススメ

Vol. 22

すっかり寒くなりましたね。商店街は早くもクリスマスの飾りですし、年賀状も発売されて、今年も残りが僅かになってきた感じです。終わり良ければ全て良しと昔から言われますので、残り1ヶ月頑張りましょう。

今回は【**刷り本は断裁しないで折る②**】のお話

前回の①でも書いたように、とにかく**印刷の針とクワエは、そのまま使いたい！**

特に中綴じ(又は入紙)の場合には、**版の付け方が大きく影響**します。

【紙の片方に寄せて印刷してください】とか【中央のドブを広くとってください】のように言われた事は無いでしょうか？これは「製本のススメ No6」でも図解している様に、**折本の小口側を機械(中綴じ機械)がくわえて広げる為の余白部分を作りたい為**です。

もう一度、下記の写真で二つ折を例にして、みてみましょう。



中綴じや入紙では
用紙をずらして
折ります



折のズレた部分
を、機械が掴み
刷り本を広げます

左の写真では、**版位置を針側に寄せて**用紙に印刷をしているので、トンボ通りに折ると断裁をしなくても小口側がずれて折れます。すると**右の写真**でわかるように、機械の爪が、ずれた部分を掴み、折本を中央から広げてベルトコンベアーの上へ落としていくのが基本的な仕組みです。

これなら、針側を断裁しないので、折の精度も上がり**見開きの絵や線も合い易いだけでなく**、断裁をしない分だけ、**加工時間の短縮が可能**であり、台数や部数が多ければそれだけ効果は顕著に現れます。しかし用紙のサイズにゆとりが無かったり、用紙の中央に印刷をしている場合等は、やむなく針側であっても断裁をせねばならない場合があり、残念ながら**高品質で短納期という条件には逆行**してしまいます。

製本だけでは良い本は出来ないのです。



Tea break

ちょっと頑張ってススメを書きましたら、今月はTea breakの余白が無くなってしまいました。ブレイクファンの皆さん 申し訳ありません。

次月は楽しいのを(?) 載せますから許してね。

by (株) 井関製本